

◇ 日本地域経済学会 第25回(高知)大会・総会のご案内

本年度の日本地域経済学会第25回大会が駒澤大学において開催されますので、ご案内申し上げます。

同封しております出欠書類に必要事項を記入の上、11月4日(月)までにご返送をお願い申し上げます。総会に欠席される場合は、委任状の記入もあわせてお願いします。

日本地域経済学会 第25回 東京大会プログラム

■2013年11月30日(土)

11:00~13:00 ○理事会

【駒澤大学 駒沢キャンパス第1研究館1階会議室】

13:30~16:30 ○地域公開シンポジウム

【駒澤大学 駒沢キャンパス 1号館 301教室】

『グローバル都市「東京」の産業・企業の未来』

【趣旨】

地域公開シンポジウムでは、急激に変貌する「グローバル都市東京」の実態把握と今後の「東京」の新たな発展可能性を探るため、以下の4つのテーマにもとづき、話題提供者と実務家が具体的な先進事例を交えて議論する。4つのテーマでは「東京」の産業・企業のイノベーションを中心に上げるが、それぞれアジアおよび地域経済との関係性を軸に検討を進める。多様な側面を持つ「グローバル都市東京」の一端を取り上げるにとどまるものの、翌日の共通論題シンポジウムに向けての問題提起となることを期待している。

【パネラー】

テーマ①：東京の産業政策－創業支援策を中心に

話題提供者：奥山雅之（多摩大学）

実務家事例：木島暢夫（東京都産業労働局商工部創業支援課 課長）

テーマ②：大規模再開発・まちづくり・インキュベーション

話題提供者：後藤和子（埼玉大学）

実務家事例：恵良隆二（三菱地所㈱三菱一号館美術館 室長）

テーマ③：クリエイティブ産業と地場産業

話題提供者：小田宏信（成蹊大学）

実務家事例：鈴木淳（台東デザイナーズビレッジ 村長）

テーマ④：グローバルゼーションと東京の中小企業・工業集積

話題提供者：伊東博巳（公益財団法人大田区産業振興協会 専務理事）

実務家事例：國廣愛彦（㈱フルハートジャパン・㈱ハーベストジャパン 代表取締役）

【総括コメント】三井逸友（嘉悦大学）

【全体進行】長山宗広（駒澤大学）

16:45~17:30 ○総会

【駒澤大学 駒沢キャンパス 1号館 301教室】

18:00~20:00 ○懇親会

【駒澤大学 深沢キャンパス 洋館大ホール】

会費：5000円（院生2500円）

■2013年12月1日（日）

9:30~12:00 ○自由論題

【駒澤大学 深沢キャンパス 講義室2-1、2-2】

〈第1分科会〉テーマ：地域経済の現状分析

座長：山川充夫（帝京大学）、鎌倉健（大阪樟蔭女子大学）

(1) 藤谷岳（協同総合研究所 研究員）

：「再生可能エネルギー導入による地域エネルギー供給構造への影響」

(2) 小柳津英知（富山大学 経済学部 教授）・小林俊哉（九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター 准教授）

：「民間研究所の地域別立地の特徴に関する分析—機能分担を中心に—」

(3) 瀬戸良昭（大阪市立大学大学院 経営学研究科 後期博士課程）

：「中小企業団体と地域経済の担い手—東住吉・平野 産業交流フェアを事例として」

〈第2分科会〉テーマ：地域経済の理論・歴史・政策

座長：小田清（北海学園大学）

(1) 小山大介・水島 和哉（京都大学大学院 経済学研究科 博士後期課程）

：「経済のグローバル化にともなう公共調達制度の変容と地域経済—京都府官公需適格組合協議会による先進事例調査を手がかりに—」

(2) 森賀盾雄（愛媛大学 農学部 教授）・延藤裕之（愛媛大学 農学研究科 修士課程）・岡本玲佳（愛媛大学 農学研究科 修士課程）

：「『ふるさと遺産』活用による都市・農村交流圏の形成—佐田岬半島固有の自然・歴史・文化資源の蓄積をベースに—」

(3) 李玟静（韓国・忠南発展研究院 研究員）

：「韓国における地域発展政策の変遷と地方自治体の対応：忠清南道を中心に」

<1報告50分：うち報告25分、質疑応答20分、残り5分で交替>

12:00~13:20 ○昼食

徒歩 10 分圏内のレストラン・喫茶店等を利用、会場周辺地図を当日配布予定。

13:30~16:30 ○共通論題シンポジウム

【駒澤大学 深沢キャンパス アカデミーホール】

「『グローバル都市東京』と地域経済」

【趣旨】

我が国の地域経済は「東京」を頂点とする求心的重層的ヒエラルヒー構造の中に存在し、その動向は「東京」の動きに規定される。その枠組みを前提とするならば、「東京」論は、地域経済学においてきわめて重要な論点である。従来、「東京」の影響力の基盤は、政治的・行政的・経済的意思決定力や文化的支配力など、日本国内の中枢管理機能を独占するとともに、都市内部ではフルセット型の多様な産業構造をもつところにあるとされてきた。そして、1980年代に入ると、「東京」の他の地域経済に対する影響力は一段と顕著となり、「東京一極集中型経済」と呼ばれるようになった。ところが1990年代に入ると、経済の「グローバル化」という新たな動きが本格化し、「東京」は日本と世界を結びつける「ゲートウェイ都市」として国民経済の枠を超えたコントロールセンター機能を持つ都市へと変貌した。「グローバル都市東京」の誕生である。

特に1990年代以降の「グローバル都市東京」では、貿易取引や金融・資本取引など世界と日本を結ぶトランスナショナルな経済活動が本格化し、それが国内での生産活動や経済取引を統括する従来の機能に重なり合うようになった。このことを背景に、一国経済を越えるグローバルな経済循環のいわば結節点としての位置づけが注目されるようになった。このような経済構造の変化は、「東京」の内部構造に一体何をもたらし、今後の我が国の地域経済にどのような影響をもたらすのだろうか。

「グローバル都市」論は、1980年代以降、フリードマンの「世界都市仮説」などを契機に本格的に論じ

られるようになった。しかし、今日の世界経済の現状は、IT技術の普及、金融市場の膨張、新興国の台頭などにより、当時とは大きく様変わりしている。例えば、アジアの国際金融機能を取り上げても、上海や香港、シンガポールなどの追い上げにより、「東京」のプレゼンスは相対的に低下しつつある。また、「東京」内部においても、「グローバル化」とともに、製造業の生産拠点の海外移転などを通じて工業生産額などが減少し、他方で、人々の新しいつながりの中で、知識や文化、イノベーションが創造される場になりつつあるなど、従来とは異なる新たな現象が見られるようになっている。

共通論題シンポジウムでは、急激に変貌する「グローバル都市東京」に焦点を当て、我が国の地域経済や都市システムにおける「東京」の位置づけの変化、世界経済における「東京」の現代的意義、さらには、今後の「東京」の新たな発展可能性などについて検討する。

【共通論題報告者】

松原宏（東京大学）	「多極化する世界経済とグローバル都市東京」
佐無田光（金沢大学）	「日本の国民経済システムと東京経済の変化」
後藤和子（埼玉大学）	「グローバル化の中の東京と地方都市：クリエイティブ産業の視点から」

【司会】

多田憲一郎（岡山商科大学）

■2013年11月29日（金）エクスカーション

三菱地所による『丸の内・大手町のまちづくり』をテーマにエクスカーションを実施予定。翌日の「地域公開シンポジウム」の事前学習として積極的にご参加ください。

集合：14:50、三菱一号館広場（美術館中庭）。東京駅丸の内南口徒歩5分、<http://mimt.jp/access/>
予定コース：15:00～概要説明（「倶楽部21号館」新東京ビル1F）→15:40～丸の内カフェ・丸の内仲通り→15:50～三菱一号館美術館→16:10～明治生命館→16:20丸ビルアトリウム・行幸通り地下→16:40～日本創生ビレッジ（or金融交流教育センター）→エコツェリア・テナント専用オフィス→17:10～丸の内ハウス（新丸7F）・KITTE（旧中央郵便局）→17:30、終了。

＊）参加申込み方法を含め、エクスカーションの詳細は、後日、会員メーリングリストにて案内する。

■大会日時・会場

日時：2013年11月30日（土）～12月1日（日）

会場：駒澤大学駒沢キャンパス 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

駒澤大学深沢キャンパス 〒158-0081 東京都世田谷区深沢 6-8-18

■キャンパスアクセス・マップ

駒沢キャンパス → 東急田園都市線「駒沢大学」駅下車。「公園口」の出口を出て、徒歩約10分。

(11/30：理事会、地域公開シンポジウム、総会の会場)

深沢キャンパス → 駒沢キャンパスから歩いて5分。

(11/30：懇親会、12/1：自由論題、共通論題の会場)



<第25回東京大会実行委員会>

現地実行委員長 吉田敬一（駒澤大学）

ソフト委員 後藤和子（埼玉大学）、三井逸友（嘉悦大学）、遠藤聡（横浜国立大学）

ハード委員 斉藤正（駒澤大学）、松本典子（駒澤大学）、山本篤民（日本大学）

現地事務局長 長山宗広（駒澤大学）

<現地事務局>

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学経済学部 長山宗広研究室

TEL 03-3418-9672（直通）

e-Mail mnagaya@komazawa-u.ac.jp